

令和6年1月25日

令和6年

第1回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和6年1月25日（木曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史	教育長
三 留 利 夫 委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子 委 員	
高 橋 幸 子 委 員	
深 澤 佳 己 委 員	
北 内 英 章 委 員	

2 出席職員（12名）

教育総務部長	今 井 健太郎
参事（教育施設担当）	河原田 光
教育総務課長	鈴 木 孝 司
教育施設担当課長	田 中 佑 典
副参事（教育施設調整担当）	小 池 武 道
副参事（教育地域力担当）	長 岡 誠
学務課長	大 竹 豊 和
指導課長	細 田 真 司
指導企画担当課長	木 下 健太郎
学校支援担当課長	鈴 木 啓 介
教育センター所長	早 田 由香吏
大田図書館長	後 藤 清

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 議案審議

第22回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について

~~~~~

(午後2時00分開会)

○教育長

令和6年第1回大田区教育委員会定例会を開会いたします。

本日は、傍聴希望者がおります。

委員の皆様には傍聴許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または、拍手その他の方法により公然と可否を表明することは、禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しています。

まず、会議録署名委員に三留委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

本日は、2点報告をさせていただきます。

1点目は、1月13日に行われたものづくり教育・学習フォーラムについてです。このものづくり教育・学習フォーラムは、今年で22回目になりますけれども、今年は、コロナ禍を越えて参加制限を設けず、ものづくり体験の講座など、多くのこどもたちが参加し、ものづくりの楽しさを体験しておりました。

今年のものづくり教育・学習フォーラムで印象に残ったのは、令和7年度から小学校で創出を目指している新たな教科、おたの未来づくりの成果といたしますか、効果が伺われるなと思いました。小学生のこどもたちの発表が、とても充実したものになっていたと思います。

例えば、南六郷小学校のこどもたちが、身近で豊かな自然環境の多摩川を生かして、地域の方々の協力を得て、自分たちで考えて作った網を使って魚を取るなどの実践を発表していました。多摩川に囲まれた六郷ならではの実践で、こどもたちが生き生きと活動に取り組んでいる様子が、よく分かりました。

このほかのどの学校においても、地域の企業や団体とのコラボレーションがよく見られ、

その学校ならではの特色ある実践がなされていることが、大変すばらしいなと思いました。新教科、おおたの未来づくりが学校や地域の方々との協働・創意の基、確実に広がりつつあるなと思いました。

その他、体験コーナーなど、大変なにぎわいを見せて、子どもたちが夢中になってものづくりに取り組んでいる姿がありました。私は、二十数年前にもものづくり教育・学習フォーラムが始まった頃、指導主事をしていて、関わらせていただいたのですが、開催当初から、関係企業の方々、自治庁の方々、運営に関わる先生方に大変熱心に努力していただき、大田の教育にご協力をいただいていること、そのことが次第にこのような大きな成果につながってきているのだと思っております。感謝するとともに、大田区の地域力、それから、学校力の大きさを感じるところでございます。

今後、新教科の成果が、このフォーラムにも十分に、さらに表れてくるように取り組んでいきたいと改めて感じたところでございます。

報告の2点目は、1月19日に関東の教育長会の理事会というのがありまして、その折に訪問した視察訪問、大森六中の視察についてです。関東教育長会の理事及び事務局の方々が二十数名なのですけれども、勝海舟記念館と大森六中のほうを視察いたしました。

大森六中では、生徒たちが、教育長をはじめ、視察にいらした方々に、大森六中での今の取組を説明しました。

六中では、持続可能な社会を構築する担い手の育成を指してというテーマで、SDGs等を踏まえて多彩な教育活動を行い、子どもたちが主体的に活動し、学んでいる活躍する姿が見られます。

今般の教育長の視察では、生徒自身が、自分たちの学校の取組を教育長方にお話をしていました。六中の訪問の後、この勝海舟記念館に行くということで、数名の生徒の有志が、自分たちが調べた勝海舟について発表していました。

また、六中では、勝海舟の生誕200年ですから、それを踏まえて小学生用にリーフレットを作っているのですけれども、その説明等もしてくれました。

勝海舟は、いわゆる幕府の腹心として、江戸開城など、明治維新に大きな役割を果たしていますが、しっかりと資料を調べてその役割について詳しく説明してくれました。

明治維新といいますと、西郷隆盛とか、大久保利通とか、坂本龍馬など、倒幕派の人物がかなり注目をされているところなのですけれども、幕府の現状、日本の将来を見据えて、維新を導いていた幕府側の勝海舟が果たしてきた役割について、中学生が非常に専門的に詳しく話してくれました。教育長も勝海舟の人となりとその役割について、改めて理解できたと感じるような大変説得力のある内容でした。

また、勝海舟ということ学ぶことで、歴史を学ぶことの大切さ、それを自分の生き方に生かしていこうというような中学生の態度も見受けられ、地元の勝海舟に対する誇りといいますかね、そういうことも強く感じられて、教育長も大変感銘を受けていたんじゃないかと思います。私自身も中学生の持つ可能性の大きさというものを強く感じたところです。

そして、小学校でおおたの未来づくりということ始めておりますけれども、ぜひ中学生の子どもたちに、おおたの未来づくりというような取組をさらに、次の教育ビジョンの中でつなげていきたいと思っております。

私の報告は、以上でございます。何かご質問・ご意見等がありましたら、お願いいたします。

### ○三留委員

私も、ものづくり教育・学習フォーラムに参加し、開会式から午前中の全ての催しを見ました。後ほど、指導課長から詳しく話があるので、その前に恐縮ですが、ちょっと思ったこととお話しさせていただきます。

展示発表は、小学校は、馬込のシクラメンづくり、大森の麦わら細工、六郷のトンビ凧など、地域の伝統や特色を生かしたものづくりの展示が目立ちました。

中学校は、技術科・家庭科の木工、金工、それから、布を加工した見事な作品が並んでいて、中学生の力量の高さを感じたところです。

それから、先ほど、教育長が舞台発表のお話をされていました。六郷工科高校と区内の小・中学校から実施されていたわけですが、こちらもやはり地域に関連する発表が多く見られました。幾つかの学校の発表を聞いて、これまでとは違う取組の進化というか、すばらしさを感じました。

先ほど教育長が言われた新しい教科、おおたの未来づくりの考え方が、各学校に浸透してきているというのは、私も同感です。

理由として二つあります。一つは、特定の学年だけではなく、各学年にわたってものづくりに関わる取組をしている学校が増えてきたということです。

いま一つは、地域の方から学ぶということだけではなくて、自分たちも地域へ発信する、そういう取組が増えたということです。これは、まさしくおおたの未来づくりの考え方が影響しているとも思いました。

技能コンテストは、同じ木材・布を使って様々な作品を作る協議会で、木工はキリ、カンナ、のこぎりなど、布を加工する作品作りは、ミシンを上手にを使って、中学生が力量を競い合っていたわけですが、参加した中学生にとっては、貴重な機会になるのではないかなと思いました。

それから、ここ数年感じることなのですが、小学生科学展の作品展示が行われていますが、こどもたちが興味を持ったことについて仮説を立て、検証して、結論を出す、それぞれの作品は、どれも見事で、これも感心いたしました。ぜひ、この展示は続けてもらいたいなと思いました。

先ほど、教育長から話がありましたけども、ものづくり教育・学習フォーラムは、22回ということなのですが、着実に成果を上げて、質の向上が図られているということを実感いたしました。

### ○高橋委員

私も、ものづくり教育・学習フォーラムに参りました。今回から先着順に受け付けるものづくり体験では、早くから列が出来、午前中が終わるとすぐに保護者が並んでいる姿が印象的だったのですが、やはりみんなやりたいコーナーがあるので、一生懸命並んでいました。

各コーナーは、随分数が増えたなという感じがしたのですが、各コーナーともと

てもにぎわって、こどもたちが楽しそうにしておりました。

また、学習発表会は、今回、各校とも、こどもたちがとてもはきはきと発表していたなという印象があります。今回の学習を、それで終わるのではなく、これからも生かし、地域を知ったことで、大田区をもっと知りたいという声があり、とてもうれしく感じました。

中学生の職場体験の事前学習では、受け入れる先についても大変さを理解し、価値観を広げるなど、よく考えて臨んでいるのだと改めて考えさせられました。

ものづくり競技会は、途中工程も見てきましたが、最終発表で、参加者はソーイング・木工とも、とてもすばらしい作品が出来ていて、優劣付けがたいなと思っておりました。アイデア賞というのもあって、工夫されて作っているのだなと思いました。すばらしいものでした。ありがとうございます。

#### ○教育長

ありがとうございました。ほかにご意見はありますでしょうか。

#### ○深澤委員

私も、ものづくり教育・学習フォーラムに行きまわりました。先ほど、高橋委員からも話がありましたが、オンラインでの事前の受け付けではなくて、先着順であったことで、こどもが行ってやりたかったのがもういっぱいだと、受付の人が、こっちが空いているからと言うと、こどもが、じゃあ、やろうかなというような、そういうやり取りも、こどもにとっては、楽しいものなのかなと思って見ておりました。

私は、ものづくり体験に興味深く拝見しました。体験の内容は多岐にわたっておりまして、網戸の貼り替えや、壁紙の貼り替え等、生活に関わるような体験に興味深いと思いました。

また貝殻や、家の中にあるようなものを使って何か工作をしてみるというような取組もありまして、SDGsの観点からも興味深く拝見いたしました。

先ほど、教育長からもお話がありましたけれども、こどもたちが体験できる場に協力してくださる方々が非常に多いというのも、やはり大田区ならではであると思ひまして、大変ありがたく感じております。これからも地域や事業者の方たちとの協力関係のもと、大田区のこどもたちのための教育を充実させていっていただきたいと思ひしております。

あと、先ほど、三留委員からもお話がありました小学生科学展もとても興味深く拝見しました。

こどもたちが、何だろう、なぜだろうということに気付いたことを、さらに深めてその気付きを学びに変えていくことができる。これは何でそうなるのかなというところの予測を立てて、仮説を立てたことに対して自分で研究して深めていく、一つ一つの作品にその過程が示され、考えられていて、どれもすばらしい作品だと思ひました。

優秀賞とか、アイデア賞とか付いていましたけれども、全ての作品がすばらしいと思ひました。またそういう機会をこどもたちに与えてあげることが、やはり教育に携わる方たちの役目なのかなと思ひましたので、これからも科学展については、積極的に進めていただきたいと思ひました。

### ○北内委員

この度、能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被災された方々に、心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

石川県と大田区のつながりとして、県の伝統工業と本区のものづくりを挙げるができます。

例えば、今年度、小学校の教科用図書採択で社会の教科書でも紹介されていた輪島塗の職人と大田区の金属絞りの職人が、共同で制作したカップを挙げるができます。本区とのつながりも深く、私自身は、いろんな形で支援させていただきます。

私は、元旦、金沢にいたのですが、あらためて日頃からの防災意識と防災訓練の大切さを思い知りました。本区では、多摩川小学校と嶺町小学校の区立小学校は、避難所に指定されています。浸水や地震など、災害時には、多くの子どもたちが避難します。引き続き、家庭、学校、地域における防災訓練と防災意識の高揚をよろしく願いいたします。

### ○弘瀬委員

残念ながら、ものづくり教育・学習フォーラムには参加できませんでした。私は能登半島の被災があった翌日から、JMATの派遣を手配する先生方をみてきました。

最初にJMATが入ったのが、日本医大のチームでした。寸断された道が多く思うように被災地にいけない状況だったと聞いております。30キロから40キロの荷物、水と寝袋等を持ちながら被災地に入るともう行ったら最後、すぐには戻ってこられない状況が続いたということです。

今度の被災は、岩手県のとくとはだいぶ違っていたようです。今回は、家が潰されて多くの方が亡くなられたようです。また、今回は、お正月だったということもあって、地元に戻られた方たち、小さなお子さんたちも被害に遭われたようです。

次から次にJMATチームが編成され順番に被災地に向かっていました。この近くでは日赤の先生、東邦医大の先生たちも3チーム形成し、またいろんな大学病院の先生たちが、どんどん手助けをしてくださって、被災地の復旧にご尽力いただきました。

もし、自分の住んでいる所に何かが起こったときに、自分は、家族一人一人のように行動を取ったらいいだろうかということを話し合うということが、大事だと思っています。

それから、被災地では衛生状況のよくありません。そのために多くの感染症が、コロナ、インフルエンザ、胃腸炎、ノロウイルスなどが蔓延していると聞きました。

医薬品の調達も不十分で点滴するにも、点滴がなかなか届かないなどいろんな問題があって、苦労しているようです。

自分が、何ができるかということは、考えるのにはいい機会だと思います。家庭の中でも話し合っただけならばと思っております。

### ○教育長

ありがとうございました。ほかにご意見は、よろしいでしょうか。

それでは、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第2は、「部課長の報告事項」でございます。

○教育長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

○指導課長

私からは、第22回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について、させていただきます。

平成14年度から開催しているものづくり教育・学習フォーラムにつきまして、令和6年1月13日、土曜日に開催いたしました。

今年度で第22回となりました。昨年度、一昨年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため縮小開催となりましたが、今年度は、会場を大田区産業プラザPiOに戻し、4年ぶりに制限を行わずに、作品展示、舞台発表、ものづくり協議会、ものづくり体験を実施しました。

本フォーラムは、大田区のこどもたちに、ものを作る感性、主体的な態度、工夫・創造する能力の育成等を目的に開催しており、令和2年度には、厚生労働省事業の「地球発！いいもの」に選出され、広く全国に周知されました。

大田区教育委員会が主催となり、様々な団体企業等から、共催・ご協力をいただいております。開催にあたっては、準備会委員長、中富小学校、鈴木康一校長先生を中心として、委員の校長先生や先生方に運営の準備を進めていただきました。

また、小学校長会、中学校校長会、大田区教育研究会、そして、小学校・中学校のPTAの会長様たちにも、ご協力いただいたところでございます。

また、今年度、新たに体験コーナーにおいて、東京貴金属技能士会にご協力をいただくことができました。関係していただいた皆様方に、深く感謝を申し上げます。

加えて、令和7年度より小学校第5・6学年で全面实施する独自教科、おおたの未来づくりの取組の発表の場として、東六郷小学校の児童が、おおたクリエイティブタウンセンターと連携し、作成したオリジナルアイテムを販売するコーナーを新設し、実際に来場者の方々に向けて販売を行いました。

体験コーナーについては、昨年度まで2年間に実施していた事前申込みを当日受け付けに戻すことで、延べ886名のこどもたちに、ものづくりの体験をしていただくことができました。

アンケートを見ますと、様々な体験や学習を通して、こどもたちや体験コーナーを出展していただいた各団体・企業の方々から、各ブースで講師の方に優しく教えていただき、自分にもできると達成感がありました。今後も、また、ぜひ協力や参加をしたいなどの多くの感想があり、参加者等から、充実した内容にすることができたというようなお声を感ずることができました。

ものづくり協議会では、中学校の代表生徒が、当日の本番に向けてアイデアを練り、練

習を積み重ねてきた成果を十分に発揮し、今年度の時間内に全生徒がすてきな作品を完成させることができました。

加えて、昨年度に引き続き、東京蒲田ロータリークラブのご厚意で、副賞のご支援をいただき、木工部門の最優秀賞者には、3Dプリンター、ソーイング部門の最優秀賞者には、ミシンを贈呈しました。

全ての来場者数は、昨年度よりも多く、延べ5,522名の皆様にご参加をいただきました。本フォーラムは、ものづくりのまち、大田の教育における一大イベントとなっております。今後は、発表や展示の内容に教科、おたの未来づくりで学んだことなど、STEAM教育の視点を取り入れるなど、さらに内容を充実させ、参加したこどもたちが、将来、大田区のものづくりに関わったり、支えたりする人材に成長していくことを目指してまいります。

#### ○教育長

何かご質問・ご意見は、ありますか。

この、ものづくり協議会で作られた作品等は、どこか展示とか、そういうのはありますか。

#### ○指導課長

今のところ各学校のほうに、それぞれお戻しさせていただいているところですが、今後、そういったせっかく作ったすばらしい作品が多くありますので、何かもっと多く見ていただけるような機会ということを検討していきたいとは思っています。

#### ○教育長

よろしいでしょうか。

それでは、ご質問がないようでしたら、本日は、これを持ちまして、令和6年第1回の教育委員会定例会を閉会とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

令和6年 第1回 教育委員会 定例会 1月25日(木) 午後2:00～

教育委員会室

<教育長の報告事項>

<部課長の報告事項>

教育総務部長

参事（教育施設担当）

教育総務課長

教育施設担当課長

副参事（教育地域力担当）

副参事（教育施設調整担当）

学務課長

指導課長 第22回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について

指導企画担当課長

学校支援担当課長

副参事（法務担当）

教育センター所長

幼児教育センター所長

大田図書館長

令和6年1月25日

令和6年第1回教育委員会定例会日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項

# 令和5年度 第22回ものづくり教育・学習フォーラムの開催報告について

## 事業の目的

- ものを創る感性、主体的な態度、工夫・創造する能力の育成
- ものづくりの重要性や技能、技術が果たす役割の理解、地域産業の重要性や、ものづくりを支える勤労者を尊敬する態度、望ましい勤労観や職業観の育成
- 技術立国日本、ものづくりのまち大田の将来を支える人材の育成
- ものづくりへの興味・関心、社会・産業の理解の涵養による、地域への愛着の深化

## 実施団体等

- 主催 大田区教育委員会
- 主管 ものづくり教育・学習フォーラム準備会
- 共催 大田区、大田区産業振興協会、大田区立小学校長会、大田区立中学校長会、大田区教育研究会、大田区立小学校PTA連絡協議会、大田区立中学校PTA連合協議会
- 協力団体・企業等  
おおた少年少女発明クラブ、東京都職業能力開発協会、建住宅東京都洋裁技能士会、東京貴金属技能士会、おおた fab、六郷 BASE、大田区に昆虫の楽園を作る会、キャリアクリアリング、東京蒲田ロータリークラブ、大田工業連合会、蔵前工業会・くらりか、東京都立城南職業能力開発センター大田校、大田区建築あっせん事業連絡協議会、東工大 Science Techno、おおたコマプロジェクト 大森工場協会、日本工学院専門学校、蒲田女子高等学校、(株)ジャノメ、日本赤十字社  
東京都立つばさ総合高等学校、東京都立城南特別支援学校、東京都立六郷工科高等学校、東京都立矢口特別支援学校、東京都立品川特別支援学校

※ 下線は令和5年度新規

## 事業の沿革(経過)

- 平成 12・13 年度、14・15 年度、16・17 年度に文部省(文部科学省)「ものづくり学習振興支援事業推進地域」として指定  
平成 12 年度よりものづくり学習振興協議会の設置・開催
- 平成 14 年度よりものづくり教育・学習フォーラムの実施  
(過去数年の来場者数 第 12 回 4141 名 第 13 回 5515 名 第 14 回 7919 名 第 15 回 6850 名 第 16 回 9646 名 第 17 回 7953 名 第 18 回 6469 名 第 19 回中止 第 20 回 2191 名 第 21 回 4894 名)
- 令和2年度 厚生労働省事業「地域発！いいもの」に選定

## 本年度の事業内容

日時：令和6年1月13日(土) 9:00~16:00

会場：大田区産業プラザ PiO 対象：大田区内小中学生、保護者、区民

### ○作品展示 小学校 30 校、中学校全 28 校、特別支援学校 3 校、○大田区小学生科学展 30 校

大田区立小学校(学校番号が奇数の学校 30 校)、中学校全 28 校、東京都立特別支援学校3校の児童・生徒のものづくり学習の作品や成果のパネル展示、机上展示を行った。大田区小学生展は、東京都小学生科学展向けに出品された大田区立小学校の学校代表作品 30 点のパネル展示を行った。作品展示については、参加者が自由に見学できるようにした。



### ○舞台発表 小学校 9 校、中学校 5 校、高等学校 2 校

社会科や図画工作、家庭科、総合的な学習の時間等、授業でのものづくり学習の体験発表、中学校の生徒による職場体験における事業所での製作体験や見学の発表、東京都立六郷工科高等学校、蒲田女子高等学校のものづくり学習について、児童や生徒が舞台発表を行った。



### ○ものづくり競技会 木工部門：中学校 8 校 18 名、ソーイング部門：中学校 6 校 16 名

技術分野(木材部門)は、「一枚板からの自由作品製作」、家庭科分野(ソーイング部門)は、「1mの布からのバッグ製作」をテーマとし、午前・午後合わせて、約4時間で作成した。講師による審査を行い、最優秀賞1名、優秀賞2名、技能賞2名、アイデア賞2名、敢闘賞を授与した。



### ○ものづくり体験 16 団体による 19 種類の体験

ミシンでつくる巾着袋、動物形等切抜きストラップづくり体験、住まいのDIY体験、はたおり体験、3Dプリンタでネームプレート、3Dプリンタ製カーレーシング、香り玉ストラップ、椅子づくり、電子工作体験、ペットボトル顕微鏡、木製の貯金箱の製作、イルミネーションライト、おおたコマ組み立てオリジナルパーツ作り、Ledと光ファイバーでつくる輝く夜空、コンコンキツツキ&パッケンわに、簀編みの壁掛け、貝殻アート、紙コプター、種の標本



「ミシンでつくる巾着袋」  
「動物形等切抜きストラップづくり体験」



「ペットボトル顕微鏡」

## 本年度の成果と課題

(延べ) 来場者数：5522 名 (うち、体験コーナー参加幼児・児童・生徒：886 名)

- 【成果】・「ものづくり体験」「舞台発表」「作品展示」「ものづくり競技会」と、どの会場でも「ものづくり」に関するテーマで児童・生徒や保護者・地域の方々が、大田区のものづくり産業への興味・関心を高めることができた。また、東京都立特別支援学校3校に展示発表で御協力をいただき、共生社会の実現という視点で、充実させることができた。
- ・大田区産業振興協会をはじめ、大田工業連合会、大田区立小学校PTA連絡協議会、大田区立中学校PTA連合協議会等との連携をすすめ、円滑な運営ができた。
- ・準備の会場設営等を外部に委託することで、教員や事務局職員の準備・片付けに係る時間を短縮することができた。
- ・東京蒲田ロータリークラブから「ものづくり競技会」の各賞に副賞の提供をいただいた。最優秀賞は、木工部門は、3Dプリンタ、ソーイング部門は、ミシンを御提供いただいた。
- 【課題】・ものづくり体験に参加する方々が、受付時間開始前に、長時間列に並ぶことに対する配慮を行う。